



# CTF通信

集う・遊ぶ  
学ぶ・働く

第 245 号

2023 年 8 月

発行 CTF 松阪

## CTF 松阪会員親睦会のご案内

### ～蕎麦打ち体験と「めずらし峠ウォーキング」

今年の秋、飯高で「蕎麦打ち」を体験してみませんか？



7 年前にも同じ蕎麦打ちを体験しましたが、参加できなかった方々から「行きたい！」とのリクエストを頂きましたのでもう一度計画することにしました。蕎麦を 賞味した後、足に自信のある方はウォーキング（または車でも可）もできます。

- ・日 時：10 月 7 日（土）8 時 30 分出発、16 時頃帰着
- ・集合場所：鈴の森駐車場（川井町の松阪市図書館横）CTF 松阪会員の車に分乗します。
- ・行 き 先：飯高道の駅
- ・参 加 費：約 1,000 円（昼食代 “打った蕎麦で盛蕎麦”、交通費を含む）
- ・行事内容：蕎麦打ちを体験（1鉢を 3 人一組で体験、5 鉢 15 名） 約2時間

昼食（蕎麦打ちした蕎麦を盛蕎麦で昼食） 約1時間

ウォーキング（現地ガイド付）「めずらし峠、礫石、倭姫の姿見の池」 約2時間

なお、歩くのが苦手な方でも車で一緒に移動して見学することができます。

【当日の持参物】参加費、エプロン、三角巾（またはタオル）

【参加希望の皆様】「蕎麦打ち体験」の事前予約が必要ですので、下記要領でご連絡下さい。

- ・連 絡 先：山田則男、TEL：0598-26-6333

または E-mail : kn\_yama\_55\_nori@kss.biglobe.ne.jp

- ・申込み締切日：8 月 20 日（日）

なお、多数の申込みを頂いて、「蕎麦打ち体験」ができない方々が出る場合には、「盛蕎麦の昼食のみ」で調整をさせて頂きたいたいと思いますので、予めご了解願います。



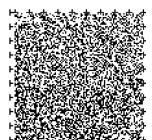
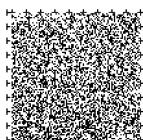
### 松阪三英傑と四人の妻（奥方 嫁 嫁 妻）

W・H

松阪の三英傑と言えば「蒲生氏郷（1556-1595）」、「三井高利（1622-1694）」、「本居宣長（1730-1801）」です。生きていればそれぞれ、467 歳 401 歳 293 歳ぐらいです。この 3 名の奥様達について想像を含め、勝手気ままに書いてみました。

織田信長に気に入られた氏郷は信長の次女を娶り信長の娘婿となります。（氏郷 14 歳、冬姫 9 歳）冬姫 23 歳で嫡男秀行誕生、松坂城に入城したころが 28 歳、2 年後には会津へ移ります。氏郷が 40 歳で病没。冬姫 35 歳で美形の未亡人となる。氏郷との仲は良かったらしいです。秀吉の側室とされるリスクを感じてか出家、蒲生家の終末を見届け 84 歳で没。豪商三井高利の嫁は豪商中川氏の長女「かね」さん。15 歳で 14 歳年の高利に嫁ぎ 10 男 5 女をもうける。72 歳で高利が没した 2 年後 60 歳で生涯を終える。優しい人柄で、

後世の人に「女人の鏡」と讃えられた一生であったとか。（ツブヤキ：やり手の殊法さんが姑、お察しします。子供 15 人産むのも大変だ）



本居宣長の妻は「たみ」さん。宣長の母の「勝」の名をもらい改名、年の差は「たみ」が11歳下、宣長が亡くなつてから10年間の未亡人生活80歳で没。

(下記URLまたはQRコードで宣長記念館の資料へ) ?

<https://www.norinagakinenkan.com/norinaga/kaisetsu/kekkon.html>



## ChatGPTについて(4)



夏休みの宿題に読書感想文がありましたが、今回はChatGPTで小学校高学年向け課題図書の読書感想文を作成してみましょう。

### プロンプト例

信頼性ある家庭教師として、PHP研究所の『魔女だったかもしれないわたし』という書籍について、以下の制約条件を基にして、夏休みの宿題である読書感想文を出力して下さい。

制約条件1： 文字数は800文字以上で1200文字以内

制約条件2： 小学5年生レベルの日本語の文章

制約条件3： 「人とちがう」ということで、辛い思いをしている主人公に、何を感じて、自分ならどうするか、そう接するとよかったですのか個人的な感想を織り交ぜる。

### 出力結果

私が読んだ『魔女だったかもしれないわたし』は、とても心温まる物語でした。主人公が「人とちがう」ということで辛い思いをしている様子に触れながら、自分ならどうするか、そう接するとよかったですのかを考えさせられました。

物語の舞台は、魔女の里と人間の里が隣り合わせの世界。主人公のヒロインは、魔女の里の出身でありながら人間の里で暮らしている少女、さくら。彼女は魔法の力を持ち、そのことで周囲と違う存在として苦しんでいました。同じく魔法の力を持つ友人たちも、人間の里で違和感を覚えながらも、強く生きている姿が印象的でした。

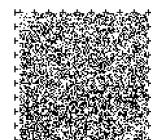
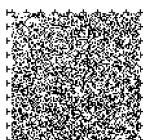
この物語を読みながら感じたことは、私たちは誰もが何かしら「人とちがう」部分を抱えているということです。それが見た目や性格、能力によるものであれば、周囲との違いを感じることがあります。さくらたちのように、特別な力を持つことで孤立してしまうこともあるでしょう。

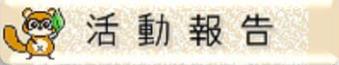
・・・ 続く ・・・

以上のように数分で感想文が作成されます。なお主人公の名前や場所など違っている場合があるので内容をよく確認する必要があります。

実際の感想文に仕上げるにはこのままコピペするのはいただけないので、普段使っている言葉遣いや単語などに置き換える。また気になった箇所や不明

なところは再度調べ加筆や修正をするなどして感想文を仕上げれば良いかと思われます。





【7月】

## 障がい者対象個人向けパソコン講座 (4日、11日、18日、25日)



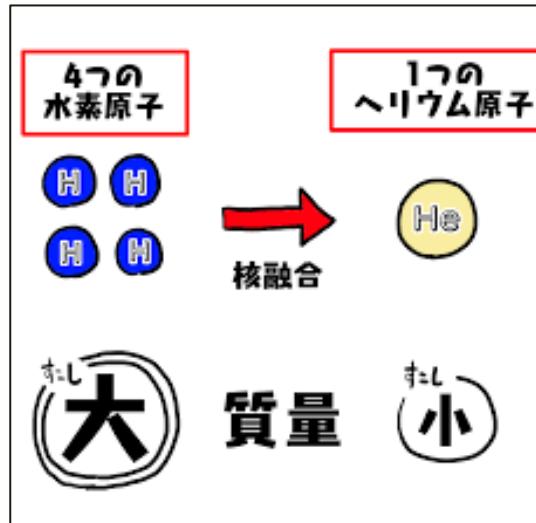
太陽は何でできているのかな？

太陽はガスばかりでできていて、地球のような陸地や海などはまったくないのじゃ。

太陽を作っている元素は、水素が一番多くて全体の90%を占めておる。次いでヘリウムが10%くらい。太陽はほとんどこの2種類でできているといつてもよいくらいじゃ。これら以外にわずかに、酸素・窒素・炭素・鉄・カルシウム・硫黄などが存在する。

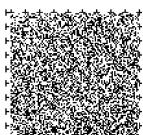
太陽の中心はどうなっているのかな？

太陽の中心は、高密度の水素ばかりで約1600万度という高温の灼熱地獄。そこでは“核融合反応”が起きていて、右図のように4個の水素原子が1個のヘリウムに変わつてゐる。その時に水素4個の質量（重さ）よりヘリウム1個の質量の方が軽くなる、そうするとAINシュタインが考えたように軽くなった質量の分に相当するエネルギーが放出されることになる。太陽の中心の核融合で発生したエネルギーは、放射や対流などによって太陽表面まで運ばれるので、太陽表面は6000℃という高温になつてゐるそうじや。地球上で人間をはじめとして動物や植物が生きていくのは、この太陽からもらつてゐる熱のお陰じや。



地球上でも、“核融合”によってエネルギーを生み出そうという試みが行われておるが、実用化に成功した例はないそうじや。

【参考】名古屋大学、ちがくたす





## 今年の夏も伊豆高原に行ってきた

毎日暑いですね～。梅雨も明け夏休みも始まりました。ということで今年も昨年同様伊豆高原に行ってきました。高速道路の深夜割引を適応するため昨年同様 3 時に松阪 IC から乗っていきます。

さて今回は昨年行けなかった大室山、シャボテン公園、城ヶ崎海岸がメインです。

11 時前にシャボテン公園に到着、この日は朝から太陽がギラギラしておりとてつもなく暑い日でした。園内はコンクリートからの照り返しで影の無いところを歩くのは大変です。この暑さで動物たちもグロッキー気味でした。唯一水辺を周遊するボートは涼しそうでした。

園内を歩き疲れたので早々ホテルにチェックインです。チェックイン後は露天風呂にまっしぐら、温泉を堪能しました。このホテルは昨年宿泊してよかったので同じホテルです。そのため昨年は食事するのも風呂にいくのも場所がわからず迷子になっていましたが今年はもう大丈夫です。

翌日はサボテン公園近くの大室山に登ってきました。といつても歩いて登るのは大変なのでリフトに乗っての登山です。このリフト一直線に登るため角度がきつくちょっと怖いです。特に下りは怖かったです。頂上はすり鉢状になっておりその周辺を周回できる散歩コースが整備されています。1 週 20 分程度かかりました。また平坦でなくアップダウンがきつく足にきました。なおこの日は天候もよく山頂からの眺望は最高でした。残念ながら富士山は半分ぐらい雲にかくれていましたけど。

次に向かったのは城ヶ崎海岸です。ここは吊り橋が有名です。そのせいか観光客も多く吊り橋の多くにひとが乗っているのを見ると橋が落ちないかちょっと心配になりました。海岸の先端でぼうーと海を眺めてきました。この近くには多くの施設が点在するので移動が楽です。今回はこのへんで帰路につきました。



### 編集後記

梅雨が明けたとたん猛暑到来です。

日中の作業はとてもできたものではないので、朝夕の短時間での作業になってしまいます。

毎日熱中症防止の呼びかけがなされていますが、冷たいものをグビグビ飲んでいるのでお腹の調子もダウン気味です。皆様も体調管理には十分ご注意ください。



シャボテン公園内



大室山からの富士山



城ヶ崎海岸吊り橋

## CTF 通信第 245 号

2023 年（令和 5 年）8 月発行

発行者 IT を活用した障がい者支援 NPO 法人

CTF 松阪

発行責任者 山 田 則 男

住 所 〒515-0083

松阪市中町 6-9-1401

電 話 0598-26-6333

<http://ctf-matsusaka.sakura.ne.jp/>

